

第5回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事録

日時	平成27年6月25日(木) 午後2時から4時まで
場所	区役所5階大会議室A B
出席者	(敬称略) 名和田、岡田、辻村、山口、諸橋、奥津、網代、清水、福田、森谷、高橋、土居岸本、杉野、渋谷、米倉、大塚、伊藤、村島、中野、宮原、瀧澤、里見、板坂
	<p>薬師寺区長 あいさつ</p> <p>この会議は昨年4回開催し、毎回貴重な意見をいただいている。皆様の意見を踏まえ地区別計画策定の指針を作成したが、これは今回の第3期計画のひとつの大きな成果だと感じている。今年第3期計画を策定する年となり、皆様はそれぞれの地区でも中心的な役割を果たして下さっている方であり、地区別計画の策定についてもよろしく願いいたします。この懇談会については、区民意見の募集を経て年内には全体をまとめなくてはならないハードなスケジュールで進めるが、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>1. 第4回地域福祉保健計画懇談会の振り返り (資料1)</p> <p>事務局から第4回地域福祉保健計画懇談会の振り返りについて説明がされた。中身については、この会議での議論がどう中間案に反映されたか議題3にて議論する。</p> <p>2. 27年度の地域福祉保健計画策定スケジュールについて (資料2、3)</p> <p>事務局から「27年度の地域福祉保健計画策定スケジュールについて」と「平成27年度地区別計画推進懇談会開催のご紹介」について説明がされた。</p> <p>3. 第3期全域計画中間案について (資料4、5)</p> <p>事務局から第3期全域計画中間案について説明がされた。</p> <p>事務局：8月1日から8月31日まで区民意見を募集するための中間案の内容としてこの内容でよいか、本日議論いただきたい。</p> <p><質疑応答></p> <p>◆策定懇談会での意見と団体ヒアリングからの意見が並べてあるが、全域計画の一部として中身を具体的にイメージしてもらうための例示であり、あくまでも計画の一部と理解してよいか。</p> <p>事務局：そう理解していただいてよい。</p> <p>◆策定懇談会や団体ヒアリングでの意見も計画書の中身として反映されると理解してよいということである。</p> <p>◆P4の瀬谷区の現状があるが、どのようなイメージか。一般の方が見た時に関心を持つような内</p>

容にしないと、現状の数字だけだと前向きではない。

事務局：現状だけを書くと無味乾燥なものになるので、3期に向けて展望が開けるようなものを拾って書いていきたい。たとえば、ボランティア活動に携わっている方が地域にたくさんいるなど、次につながるような書き方をしたい。

◆P25以降に5年後の姿がある。現状がすでに達成しているところもあるのでそこは留意して書くということだと思う。

◆瀬谷区の現状のところ、精神保健福祉手帳の交付の割合が特に高くなっていると思う。他の区でも精神保健は増えているが、きっちり瀬谷区のイメージを出すには書く必要があると感じた。

◆ここは現状分析なので、しっかり書くべき。

◆情報という括りで考えると、「必要な情報の提供」の“必要”というのは人それぞれ違って難しい。情報を提供するのはいいが、認知症、高次脳機能障害、聴覚視覚障害のある方等、受け手の立場でどう考えるかも必要。様々な困難を配慮した上で、提供する姿勢を示す必要があると思う。東日本大震災でも障害者が健常者の2倍亡くなっていることを考えても、受ける側に配慮をした表現をしてもらえると嬉しい。

◆とりわけP20以下の視点3に関わるのかと思うが、具体的に言える所があれば。

◆プライバシーの保護の問題もあり難しいのだが、防災の取組で援護者・要援護者の名簿作りも進んできているが、そこに上がってくる情報だけでは障害の種別も分からない。個人情報の保護のため、なおさら難しいが、防災の取組の中で少しイメージを示していくと良い。具体的なイメージはまだできていないが、それを考えて行く必要があるという認識だけでもよいので載せてもらいたい。

◆P21あたり、“情報が届いていない”等に関するところかと思われるが、受け止められるような格好の情報にするという意味合いだと思うので、もう一工夫してもらいたい。

事務局：要援護者情報や障害区分では個々は表現できないということ。それぞれの状態に応じてという文言になると思うが、配慮した情報発信を頭に入れてやっていくと書き加えたい。

◆計画書の目次にページをいれてもらいたい。P29の各地区の地区別計画を12地区並べる時、見開きで分かるような紙面構成にお願いしたい。

内容については、P5(オ)「全域計画と地区別計画の関係」で、1行目に「地区別計画を中心とした」とあるが、そうではなく、地区別計画と全域計画があつてこの計画が成り立つので並列だと思ふ。P25「健康で長寿な地域づくり」のところ、先日の「からだまるごと健康フェア」などの開催により健康について考えてもらっているという記載も入れてもらいたい。

事務局：目次のページは、実際には中間案の時から入れる。地区別計画と全域計画は2本立てというのはその通りであるが、第1期から地区別計画を策定して、地域の力を借りて進めていたのでこのように書いたが、この懇談会で2本立ての方がよいということであれば書き直したい。健康づくりフェアの内容も入れる。最後に地区別計画の見せ方は、前回同様見開きで掲載する。中間案では示せないがその次の懇談会では入れたい。

◆P5の記載について、「地区別計画でも基本理念と基本目標を共有することにした」とさりげなく記載がある。第1期・第2期の地区別計画では地域福祉という分野で全てに網羅的に計画づくりされるわけではなかったが、第3期になり「地区別計画策定・推進にあたって」で示されたような、最低これだけのものを決めて地区主体で地域福祉を進めて行こう、という気持ちで全域計

画の目標を立てている。ただ、客観的には、2本の柱と言った方が現状を反映しているということか。

◆P9とP22に団体ヒアリングの子育て支援団体の意見が並んでいる中、「主任児童委員」という団体だけがピックアップされているように感じる。子育ては特定ではなく地域の様々な団体に関わり、4月からの新しい制度によって行かなくてはならない。

◆地域全体で子どもを見守っていくということであれば、あえて主任児童委員を出さなくてもよいということか。

◆たまたま主任児童委員として、子育て支援団体のヒアリングに出ていたのを取り上げられているのだと思う。みんなで取り組んでいくことが大事なので、主任児童委員にこだわるつもりはない。「多くの」とか「全体で」とか「みんなで」と書いてもらいたい。

◆全体として若い世代に関わるという記述がたくさんある。色々なところで、現役世代、若い世代が強調されている。懇談会の議論そのものがみんなで作っていきこうという方向性になっている現れだろう。

◆P10「健康で長寿な地域づくり」という文章があるが、具体的な答えは出せないがこころの健康面の取組が弱いと感じる。3つめの段落「休養をとり、こころの健康を保つなど・・・」心の健康が休養をとっただけで保たれるのか、市は心の健康をどう保つのか。精神疾患が入って5大疾病となった。統合失調症については100人に1人の発症だが、その周辺の精神疾患も増えている。精神疾患は偏見があり、なかなか表に出ないが地域でかなりの人数の人がいる。そのような人への共助・公助が必要なので太字でいれてもらいたい。

◆次の段落の「地域の交流を持つことが、心身の健康に効果があるといわれています」という部分の表現を工夫するとだいぶ違うのではないか。

◆医療計画に2年前から精神疾患についても加わったので、もう少し強調していただければよいと思う。

事務局:アドバイスしていただきながら文言を考えたい。

◆受けとめる地域の人が詳しくわかっていないので、どのように書いたら皆さんにわかってもらえるのか。もしくは、「そのような理解を得られるような機会を設けよう」とどこかに入れたらよい。地域の間が学ぶ機会を作ることが大事。

策定懇談会の意見、団体ヒアリングの意見とあるが、これと計画の中の記述と策定懇談会との関係性が何処にも謳われていない。何故ヒアリングをしたのかとどこかに説明が必要。前段に入れるか工夫が必要。

事務局:P32にプロセスを紹介するが、全域と地区別の関係性の前に、意見をベースに計画ができていくということをわかるように書きたい。

◆P4に、ヒアリングや懇談会をしたということが書かれているが、列挙されている意見が計画の一部なのかコラム的なものなのか、このままではわからない。計画書の一部であるということが明示されていないので、どういう意味で意見が収録されているのか、今後計画書の作成を進めていく上で、計画書に前提を入れたい。P17の精神について、障害理解というプロセスが日常生活に当たり前にあるべきだということも入れるとわかりやすい気がする。

事務局:意見としていただいただけでなく、区、地域としても障害を理解することに取り組んでいくということならP25あたりに「5年後のあるべき姿や実現のための取り組み」のどこ

ろにしっかり意思表示をしたい。瀬谷区の現状の部分について、障害者手帳の交付状況の記述や現状の記述だけでは前向きではないと言うご意見については、福祉のニーズが高い区であるが、プロセスの中に現状の課題認識と、2期の振り返り・懇談会での意見を踏まえて、一体としてこの計画が成り立っているということを書くべきだと思った。

◆平成25年度に「暮らしや地域に関する調査」をやったとある。別ページに出てくる区民意識調査の中でやった調査だと思われるが、名前が違うのでわかりやすくしたい。また、ここではパーセンテージしかでていないが、どの位の母数でいつ、どのような年齢構成で調査を行ったのかどこか前段に調査概要を入れてもらい、「以降区民意識調査と表記します」と明記してもらえるとわかりやすい。

事務局：何年かに一度やっている区民意識調査の中に地区別計画の準備段階で「暮らしや地域に関する調査」をやらせてもらったことをしっかり書き込みたい。P32の計画作成のプロセスのところに、意識調査の概要等があるので、少し前に持っていき全体の流れがわかるように整理したい。

◆P6に基本目標が3つあるが、「健康で長寿な地域づくり」と言うところに少し引っかかる。「健康で長寿な人」や「それらのことが達成できる地域」という趣旨でちょっと書き添えた方が良いのではないか。「健康で長寿な地域」という文言がひと工夫できないかと思った。

◆P6の四角の中に3つの基本目標が並んでいて、後から詳しく説明があるが、「健康で長寿な地域」と一行だけあると少し馴染まないのかもしれない。もう少しわかりやすい表現があれば工夫していただくと良い。健康寿命ともいうので、これは長寿でかつ健康ということ。

事務局：役所的には、平均寿命と健康寿命に10歳くらい差があるので、出来るだけ平均寿命に健康でいられる期間を近づけていこうというのが横浜市の施策であり、言葉に拘りがあるわけではないが、言葉を読むだけだと上手く伝わらないということであれば、工夫が必要かとも思える。

◆健康は年齢もあるが、こころの健康等のこともあり、おそらくここは、ただ元気で長生きすればよいというものではなく、ストレスを発散しながら地域の中で楽しく過ごせること。心身共に健康にということ。その心身の心のところがどこかで表現ができると誤解が少なくなると思う。

◆心身共に健康ということはさりげなく書かれている場所がある。ここはよろしく願いたい。これは中間案だが最終案のベースとなるものである。

◆文言の問題については、すでに皆で一生懸命検討して作った文言なのでよいと思う。一番気になるのは、障害者の問題に対してはどう対応するのか。地区別でも知的障害者について、親御さんも地域に情報開示してくれない人が多いので、その辺をどう対応したらよいのか、教えてもらいたい。

事務局：7月2日に地域向けに日常の見守りから防災までの説明会をする。障害のところについても要援護者・要介護者も含めて個人個人ではセンシティブな問題で出しにくい。いざという時には見守って欲しいが、個人情報としてどこまで広がっていくのか不確かな所があり、その意味ではご指摘いただいた通り、地域での理解も進み受け止め方もしっかりできてくるということと、それがちゃんと浸透してきて、当事者や家族が安心して声を上げられるように、5年後を目指して一步一步進めていくイメージなのだと考えている。

◆P24等、「現状」、「5年後のあるべき姿」の書き方が具体的な成果に関わるのかと思う。具体的

にどこがどうということではないが、「5年後のあるべき姿」は基本的にわかりにくいところもあるように感じる。書かれていることはわかるが具体的に何をするのかわかるように書いてもらえるとよい。それは今指摘があったように「実現のための取組」に悩みに対するヒントが出て来るとよいと思う。このあたりは、中間案として発表されるときに事務局の方で精査いただきたい。

事務局：「5年後のあるべき姿」は前回の指摘を受けてきれいに整理したが、ご指摘どおり数値目標までは挙げられないまでも、なんとなく目指すところがもう少し明確になるような表現ができないか事務局でも悩んでいるところなので、中間案までにもう少しブラッシュアップできればと考えている。

◆10年前に比べると、地域として前進していると感じる。いろいろな属性を持った方々がそれぞれいて、これだけの方々が同じ地域に住んでいるということ意識するようになったのは大きな進歩があったと思う。その上でさらに理想像を掲げるのは難しいのだろうと思いつつ見直していた。

◆P24の「5年後のあるべき姿」で「区民の理解が進み」とか「その人の特性や個性を尊重する」とあり、その次の「日常の交流」の言葉がよいと思う。理解するためには、座学で「認知症とは」「障害者とは」を習うのも大切だが、並行して見慣れた存在にお互いになれるとだんだん「友達」「知り合い」になっていき、それが進むと「この人はいったい何の障害だったかしら」という位のお付き合いになっていくことがある。だから、日常の交流を構えずにできる場所（サロン等）で、高齢者や障害者の括りでなく、地域の人誰でも集える場所があると、障害の人も支援を受ける立場だけではない能力を持っているし、その方々が頑張っている姿にとっても感銘を受けるので、双方向のような気がする。片方が片方を支援するのではなく、双方向だとすると、この「日常の交流」が大切だと、このあるべき姿に日頃見慣れた馴染のある関係ができるような工夫を私たちがしていければよいと思う。

◆場づくりの話はP24の中にいくつかある。実現のための主な取組の3つ目に「地域の活動の場づくりを支援します」と書いてあり、最後には「新たな福祉保健地域活動の交流連携拠点を整備します」とあるが事務局として具体的なイメージはあるのか。

事務局：今、瀬谷区で進めている代表的な拠点としては、地域の状況に合わせて3つできた。南瀬谷の「あって南瀬谷」、阿久和北部の「大きな傘」、県営阿久和団地の「ぼかぼかプラザ」という地域福祉交流拠点、全て横浜市或いは国の補助金を使っているが、それぞれ違う補助金を使い地域のニーズにあった形で大きさも運営の仕方も地域で話し合った上で決めている。今後、地域でニーズがあればよく話を聞き、拠点ありきではなく、活動の目的にあった様々な支援方策を瀬谷区として提供していきたいという意味で「地域状況に応じ～」としてある。やりかたは色々である。

◆やり方はいろいろということ。協働の計画なので「整備します」となると区役所が整備するように聞こえる。今は、言及された既にできている3つの施設についてはP26の現状のところ挙げてられている。

◆地域にいつも言っていることだが、勝手にこちらで支援者を決めるのはよくないことと考えている。障害がある人でも、支援してくれる側に回るかもしれない。どうしても障害者や高齢者等と、支援する側にくくられてしまいがちである。そこをできるだけこちら側で支援する人と支援される人を決めないようにしたい。福祉計画だから支援することを前提に話をしているのだろうが、

どこかでその辺のところを謳ってくれるととてもよい福祉計画になると思う。

- ◆今、話された内容の話が抽象的に書かれたところは2箇所くらい出てくるが、具体的な話を伴って書かないと読み手に伝わらないと思う。

事務局 P16、17で触れている。特にP17の団体ヒアリングのご意見の下から二つ目のところで、「障害者・病名でなく、その当事者の持っている特徴を知ることが大事。そのうえで個性を尊重することが大切である。」で、できること、できないこと、あるいはここは是非手助けしてほしいというところはそれぞれ違うということ。最後のところに「障害者であっても支援することができる」これは、聴覚障害の団体から、状況さえ説明してもらえれば体は元気なので災害時の援護にも回れるという話があった。そして、参加することで地域住民との相互理解につながることになるので、それを左側の頁で具体的な視点として盛り込んでいるが、少し表現を検討したい。

- ◆基本目標Ⅱで「健康で長寿な地域づくり」とあるが、P25「5年後のあるべき姿」にあるように「長寿だけでない」という目標があるので、「健康な地域」とし「長寿」が少しひっかかる。「長寿な」と出してしまうと、地域福祉計画が高齢者のものかと捉えてしまう。乳幼児から高齢者までとみると、ことさら長寿を強調しない方がよいのかもしれない。

- ◆「長寿」は割と重要キーワードとなっていて入れざるを得ない。この計画書は「若い世代」「現役世代」「中学生」などの言葉がかなり入っていて全体としてはかなりそちらに力が入っていると思う。そのような若い時代から「長寿」を考えている方がよいだろう。むしろ、自尊心を持って生きられると言う意味で「長寿」という言葉が使われるのなら良いだろう。事務局に工夫していただきたい。

- ◆P25基本目標Ⅱ「健康で長寿な地域づくり」の「実現のための取り組み」として、できたら「年齢に応じた健康の大切さ」を啓発していきたい。

P4 現状と課題で、現状分析を出してもらっているが、現状のところにはすばらしい面の現状を書いてもらいたい。むしろ「緑が多くて住みやすい」等、素晴らしい所も書いてもらいたい。計画として検討する中、計画を作るだけでなく、基本理念「みんなで作るみんなのしあわせ」の振り返りを絶えず行って、この計画を皆で実行し計画が5年後に達成できるようにしようということを前段にいれたらよいと思った。そのためには全体の計画や地区の努力も必要であろうという括りになるのだと思う。

- ◆P4の「現状」はどうか楽しみにする。

- ◆資料4は何か提示するものか。資料4の全体の流れがとてもわかりやすく、実現のための取組も素晴らしい。さらに行動計画の具体的な事業が進められて、実現していくのだということが見えるものがあるとよいと感じた。

地域福祉保健計画が始まって10年経ち、次の5年はとても重く、皆さん目指すべき姿の理想を持っているだろうから、そこにどう進んでいくかというのは皆さんが苦勞しているところだと感じるので、お手本となるような流れが大切だと思った。

- ◆概要版でこの形がでるだろう。

事務局：資料4の資料は冊子に入れ込みたい。それぞれの事業が各目標実現のために必要というのがわかるように載せたい。

- ◆行動計画・具体的事業というのは、計画自体には入らず、計画に基づき毎年度出てくるものだが、

それも見通して一枚の絵になっておりわかりやすい。一覧として見えるものとして素晴らしい。

- ◆資料4の右端に、区、区地区社会福祉協議会とあるが、区ではなく瀬谷区役所や瀬谷区と表さないといけない。ここは瀬谷区、瀬谷区社会福祉協議会、地域ケアプラザを3段にした方がわかりやすい。

- ◆今期から地域ケアプラザも共同事務局として位置づけが上がってきて、地福では3つ対等にあるので3段に書いた方がよいだろう。

- ◆P25に健康寿命を延ばすことを具体的に書いてもらっているのがよい。「健康診断の受診率が上昇しています」と書いてあるが、受診率を上昇させるための取組は描いていない。例えば、誕生日には健診の案内をする等、具体的な運動を取り上げてもらいたい。地域別にどこの病院で見てもらえるかなどの情報を誕生日の前に配る等したらよい。

事務局：今のお話については、年度ごとの事業計画に近いものになるので、個別の事業名、アクションプランについては、毎年見直しながらの取組と理解いただきたい。

- ◆他にも基本目標として書く抽象度のばらつきはある。

5つの大切な視点がうまく整理されていて素晴らしいと思った。実際に計画を進めていく上で視点が大事である。事務局にうまくまとめてもらった。さらにこれを深めて中間案を作りたい。

4. 第3期瀬谷区地域福祉保健計画のサブタイトルについて (資料6)

事務局(藤澤課長)から第3期全域計画案について説明がされた。

事務局：中間案の区民意見募集に合わせて、載せるサブタイトルの候補を3つ作成した。サブタイトルの確定は最終の時なのでまだ先である。タイトルそのものは変わらない。中身をよくあらわす、わかりやすいサブタイトルを入れたい。

(意見交換)

- ◆「瀬谷区地域福祉保健計画～みんなでつくるみんなのしあわせ～」は消えない事を確認したい。概要版で、「地区別計画は、皆様が暮らしやすいまちづくりの計画です。」と強調されているので、サブタイトルとすれば～暮らしやすいまちづくりの計画～がしっくりすると感じる。皆の議論が【まちづくり】であることが強調されるべきだと思う。

- ◆今回の3つの候補を見て、「地区別計画は」～暮らしやすいまちづくりの計画～と書いてある。「地区別計画は」でなく「地域福祉計画は」とあればよかったが、ちょっとまずいかと感ずるので、「みんなでつくるみんなのしあわせ計画」の方がまだよいのかと思う。

- ◆今の話は広報よこはま瀬谷区6月号版の話である。この中で地区別計画について出ているところで「暮らしやすいまちづくりの計画」が使われていることを懸念されているのである。

- ◆第3期の特徴は健康長寿を取り上げたことなので、「せやまる健康長寿なまちづくりプラン」でどうか。

- ◆広報「地区別計画は」と書いたのは逆によいと思う。地区別計画と全域計画は連動しているので、逆に地区と全域が同じ土俵にあるのだと分かってよいのではないか。

- ◆地区別が一番大事なので、これでよいと思う。

- ◆「第3期瀬谷区地域福祉保健計画」のサブタイトルなので、「暮らしやすいまちづくりの計画」とすると、「計画」がふたつ重なるので、計画を抜いて「～暮らしやすいまちづくり～」でよいかも

	<p>しれない。</p> <p>◆実際にデザインして書いてみるとまた違うだろう。ここで最終案を決めるわけではないので色々な意見をいただいた。私の感想は、「暮らしやすい」という言葉は90年代に横浜市の都市の成熟という政策を始めた頃から割と多用されてきた横浜市の政策用語であり、その意味では「暮らしやすい」という言葉はなじみがあるだろう。</p> <p>6. その他</p> <p>事務局：区民意見募集について、8月1日～31日で意見をいただく。仮の白黒の冊子を作り、巻末に切り抜けば葉書で意見がもらえるようにする。FAXやMailでももらえる。</p> <p>区社会福祉協議会でカラー印刷してもらった、広報よこはま瀬谷区版6月号の記事は、概要版のさらにサマリー版のようなものとなっており、地域で使ってもらえるとわかりやすいかと思う。</p> <p>地区別計画だけでなく全体も「暮らしやすいまち」にしていきたいということによりよくお願いしたい。</p> <p>◆これで本日の議事を全て終了した。事務局にお返りする。</p> <p>事務局：本日もたくさんの意見をいただきありがとうございました。頑張って策定したが、気がつかないところで行き詰っていたり、福祉職場にいるので福祉課題という視点で捉えて若干後ろ向きというか明るい方向を見て書けていないところがあったり、全体構造が分かり難いという意見もいただいたりと中間案の策定に向けて参考になる。以上で本日の策定懇談会を終了する。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
次回	平成27年10月1日（木）14時～16時 せやまるふれあい館 1階多目的室ホール1
資料	<p>資料1-1 第4回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事要旨</p> <p>資料1-2 第4回瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 議事録</p> <p>資料2 27年度の地域福祉保健計画策定スケジュールについて</p> <p>資料3 平成27年度地区別計画推進懇談会開催のご紹介</p> <p>資料4 第3期瀬谷区地域福祉保健計画（全域計画）フロー図</p> <p>資料5 第3期瀬谷区地域福祉保健計画全体像</p> <p>資料6 第3期瀬谷区地域福祉保健計画のサブタイトルについて</p> <p>参考資料 広報よこはま瀬谷区版6月号 特集記事</p>